



第45回日本生物学的精神医学会年会
モーニングセミナー1

📍 現地開催

睡眠・覚醒リズムに 着目した気分障害の 診断と治療

座長

池田 匡志 先生

名古屋大学大学院医学系研究科 脳神経病態制御学講座
精神医学分野 教授

演者

高江洲 義和 先生

琉球大学大学院医学研究科 精神病態医学講座 准教授

開催日

2023年11月7日(火) 8:30～9:20

場所

第1会場 (万国津梁館 1F サミットホール(1/2))

〒905-0026 沖縄県名護市喜瀬1792番地

本セミナーは現地開催を予定しております。

- 本セミナーのご参加には第45回日本生物学的精神医学会年会のホームページより参加登録が必要となります。以下URLをご確認の上、事前参加登録をお願いいたします。
<https://www.okinawa-congre.co.jp/jsbp2023/>
- 本セミナーは整理券の配布はございません。直接会場にお越しいただき、先着順にご入場いただけます。
- オンデマンド配信予定はございません。



睡眠・覚醒リズムに着目した 気分障害の診断と治療

高江洲 義和 先生

琉球大学大学院医学研究科 精神病態医学講座 准教授

うつ病と双極性障害を含む気分障害には睡眠障害が高率に併存することが知られており、近年は双極性障害の病態に睡眠・覚醒リズム障害が密接な関連があることが示唆されている。双極性障害における睡眠・覚醒リズムの乱れは気分エピソードの寛解期にも存在しており、躁症状やうつ症状に独立した重要な特性と考えられている。睡眠・覚醒リズム障害はうつ病や季節性感情障害、双極性障害など、多くの気分障害に疾患横断的にみられることが報告されている。一方で、睡眠・覚醒リズム障害は気分障害の中でも特に双極性障害に特異性が高く、うつ病と双極性障害の早期の鑑別の糸口となることが示唆されている。また、双極性障害の寛解期に睡眠・覚醒リズム障害が存在することが、その後の病相再発の危険因子となることが示されているため、睡眠・覚醒リズムに着目した双極性障害の治療の重要性が注目されている。

近年、双極性障害に対する非薬物療法として、睡眠・覚醒リズム障害に焦点を当てた高照度光療法や断眠療法などの時間生物学的治療介入による気分エピソードの改善効果や再燃・再発予防治効果が報告されている。2019年には国際双極性障害学会のタスクフォースより双極性障害に対する時間生物学的治療の推奨がなされており、今後の双極性障害診療における時間生物学的治療の臨床応用が期待されている。

本講演では双極性障害と睡眠・覚醒リズム障害の関連についてのこれまでの研究知見を概説し、今後の双極性障害の臨床における睡眠・覚醒リズム障害に着目した診断や時間生物学的治療への臨床応用の可能性についても議論したい。